

平成二十四年度 「日刀保たたら」火入式および操業開始

去る平成二十五年一月二十三日(水)、島根県仁多郡奥出雲町大呂の「日刀保たたら」において、本年度初の火が入り火入式が行われ、本年度の操業が開始されました。操業回数は本年度も三

この負託に応えることができました。今回の三代の操業を経て日刀保たたら

して、運営してきた日立金属(株)安来工場からは長谷川正人事業役員工場長お

本年は、昨年と異なり降雪量が極端に少なく、地元の方々からも心配の声

代つまり三回行い、伝統技術の円滑継承と各養成員の着実な技量向上が育まれ、文化財保護法第四十七条の「選定保存技術」の趣旨に則した運営を行っております。このような重い使命を背負った「日刀保たたら」は、本年二月九日までその操業を行い、本年度も石原宮司による神事

分、柴原勤専務理事、福本富雄常務理事および黒滝哲哉たら課長の列席の事も神事で幕を明けました。この他に来賓として、日刀保たたらの前身である靖国たたらを運営していた靖国神社からは山本眞吾禰宜と後藤智司主典が、操業開始以来本事業に技術援助と柴原専務理事による玉串奉奠

が執行されました。式典は、本年より仰支斯里神社石原道夫宮司によって行われ、宮司自ら笛を演奏し、荘厳な空気に包まれました。そして午前十一時三十分、今年度初の砂鉄である「初種」が木原明村下と三上孝徳村下代行により装入され、三代の操業が開始となりました。木原村下による初種装入

三上村下代行による砂鉄装入

